

平成29年度 学校評価（評価結果と課題）

(1) 自己評価結果と課題

平成29年度の重点目標			
1 集団生活を通して自ら規律を守る品位・品格ある生徒、明るく思いやりのある生徒を育てる。 2 知識も習得、知恵及び英知を求める学習活動を展開し生徒に生きる力を身に付けさせる。 3 生徒一人一人に夢を持たせ、可能性を引き出す進路指導を進める。 4 安心・安全・清潔で落ち着いた学習環境・教育環境を整備し、心身ともに健康な生徒の育成を図る。 5 開かれた学校づくりを進め、地域に信頼され、地域に貢献できる生徒を育てる。 6 円滑な教育活動が推進できるよう、教職員の健康維持に配慮した体制を構築する。			
担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	P T A 活動と開かれた学校づくり 国際交流活動の推進 防災教育の実践	P T A の学校行事への参加を推進する。 イギリス研修の継続実施と今後の国際交流を検討する。 シェイクアウト訓練を中心に、その場に応じた行動がとれるように実施方法を検討する。	南高祭の P T A バザーも 5 回目となり、P T A 行事の一つとなった。次年度には保護者による授業参観を計画している。 7 名の生徒が夏休みのイギリス研修に参加した。また次年度はオーストラリア研修を予定しており、参加生徒の募集を行った。今後、イギリス・オーストラリア研修を継続し、国際交流を深めたい。 生徒への事前連絡なしで避難訓練を行った。多くの生徒は自らの判断により、机の下に潜る対応ができた。また、実際の地震に対応することができた。
教務部	学習指導の充実	参観授業、研究授業の効果的な実施方法を探るとともに、開かれた学校づくりの一環として、保護者や地域、近隣中学校に対する授業公開について検討する。 成績処理の効率化を検討する。	6 月に 3 週間、11 月に 2 週間の公開授業週間を設定し、教職員相互の授業参観を促すとともに、授業参観報告書により授業参観の実態を把握した。来年度は、P T A 総会時に保護者へ授業を公開し、よりよい授業を探究する一助としたい。 成績処理をメソフィアに移行させ、職員室の個々のパソコンで処理ができ、効率が上がった。
生徒指導部	地域から愛される生徒の育成 交通安全指導の充実 スマホ・携帯指導の充実 いじめの早期発見	身だしなみ指導の充実 公共マナーの充実 挨拶指導の充実 交通安全指導の充実 外部講師を招き安全教室を実施 いじめアンケート調査の実施	身だしなみについての共通理解が得られるようになった。 スマホ利用のマナーなど常日頃から啓発に努めている。本年度より本館 1 階では終日スマホの利用を禁止することで公共でのマナー意識を高めることができた。 いじめのアンケートを定期的の実施し、いじめの早期発見を心がけた。また、各委員会と連携し早期対応を行った。
進路指導部	進路意識の高揚とキャリア教育の発展	進路行事や講演会を通じて、進路目標の実現に向けた学習を支援し、キャリア教育を発展させる。	2 年生のほぼ全員がジョブシャドウイングに参加した。また模試や補講を計画的に行うことで、生徒の進路実現に寄与することができた。 進路講演会や進路ガイダンス、大学模擬授業の実施、更には企業による体験活動を通じて、進路に対する夢や希望を生徒に持たせることができた。
保健厚生部	健康管理能力の育成 美化活動の一層の充実 教育相談の充実	教職員との連携強化 生徒保健委員会の充実 学校保健委員会の充実 生徒の自発的な清掃指導の充実 年間計画に基づいた定期的な美化活動の実施 学年・保健室との連携と情報の共有 外部機関との連携と有効的な活用	歯科指導を通じて生徒自らが健康に関して意識を高め、自己管理できるような基礎を築いた。一方で美化活動に関しては委員会活動の取組がうまくできず、清掃状況の不備を多方面から指摘された。 教育相談は丁寧な相談活動と S C へのコーディネート可能な限り行った。しかし、特殊性を持った事例の増加で対応に苦慮することがあった。

担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
特活部	生徒主体の学校行事の活性化 愛校心の育成 部活動活動時間の適正化	生徒会役員と生徒議会の連携強化 応援委員会、スクールキャラクター「みなみん」の活躍 部活動終了時間の周知・徹底	生徒会は、議員を通じてクラスの意見を集約しながらクラスマッチや体育大会などの学校行事をしっかりと運営した。生徒会報「潮風」において生徒の活躍の様子を取り上げるにより、生徒会がより生徒に身近なものとなった。 外部団体と協力し、生徒会役員と「のはな」の生徒が九州北部豪雨災害支援と熊本地震復興支援を目的とした街頭募金を行った。また、議員を通じ各クラスに呼びかけて、書き損じ葉書や古本の回収を行い、世界の貧困な子どもたちの支援に貢献した。 学校行事・陸上部の壮行会、名古屋女子マラソン・穂の国ハーフマラソンの応援などに応援委員会と「みなみん」が活躍した。 キャプテン会を通じ、各部に部活動終了時間の周知・徹底を行った。
図書部	生徒が読書に親しむ場としての学校図書館の内容の充実と運営の効率化	蔵書内容を検討して、廃棄作業を行い、書架を整理する。 図書館ディスプレイの工夫をする。 蔵書管理システム Noah を導入し、図書館業務の効率化を図る。	図書館だより、図書館報、図書館フェスティバルの開催などを通じて、広報活動に力を入れた。 HR担任等と連携・協力し、図書館利用の機会を増やした。また、新着図書ディスプレイの工夫や手に取りやすいようにブックスタンドの利用等を行った。 図書管理システム Noah を導入し、図書館業務の効率化を推進した。
情報推進部	情報管理の促進	情報化推進委員会を活用し、各分掌・学年・教科のコンピュータ担当者として協力をして情報管理の周知徹底を図る。	情報化推進委員会において、各分掌のネットワーク担当者への情報セキュリティー実施手順の周知徹底を図り、各分掌・学年・教科へのフィードバックにより全職員の情報管理の意識を高めた。
生活デザイン科	基礎・基本学習の確立 キャリア教育の推進	学習習慣の定着 キャリア教育による社会性育成	授業や検定指導を通して課題学習を行い、基礎知識・技術の定着を図った。 キャリア教育においては、インターンシップ、保育実習ともに受け入れ先が増え、多くの体験を通して働くことの意義について理解を深めることができた。
3年学年会	進路目標の実現に向けた実力の育成と、品位と規律ある最上級生としての生活の充実	進路指導の時期を考えた適切な情報提示 定期的な個人面談の実施	学年集会や進路講話を通して受験生としての気持ちの切り替えを促した。また個人面談を複数回実施する中で進路希望や友人関係など、抱える問題を把握し適切に対応するよう努めた。生徒は、進路実現に向けた学びへの挑戦が、強い人間性を育てるということをよく理解し、学年全体で最後まであきらめることなく取り組むことができた。
2年学年会	高校生として自覚を持った生活と、具体的な進路目標の設定および、実現に向けての行動	学習記録表や個人面談等で生徒把握をする。 進路通信や体験学習、進路講話等を充実させる。	全ての生徒がジョブシャドウイング等に参加した。またクラス内報告および代表生徒が1、2年生全体に活動内容を発表することで自己の進路実現に向けた意識が高まった。 学習記録表や個人面談、進路講話は1年生時から継続して、計画的に実施することができた。 模試実施後の自己採点や振り返り指導を充実させることで、学力の向上とともに将来の職について意識を高めることができた。
1年学年会	基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着	学習記録及び定期的な個人面談を活用し、基本的な生活習慣の確立に努める。	生徒は時間に余裕を持って登校し、朝の読書に落ち着いた雰囲気を取り組めた。 学習記録表の内容を見直し、学習及び生活習慣の確立を目指した。成果が出てきた生徒もいるがまだ十分とは言えない。引き続き指導するとともに次年度に向けて支援を行っていく。 GSにおいて、留学生との交流会や外部講師の講話などを通し将来について考える機会を持つことができた。

総合評価	<p>キャリア教育推進委員会の中で、指導内容・方法の改善を積極的に進め、3年間を見通したキャリア教育を行えるようになった。また、このことにより生徒の進路意識が高まった。</p> <p>P T A活動、及び生徒会・ボランティアグループ「のはな」、吹奏楽・応援委員会の外部との交流が活発となり、地域等との連携を深めることができた。</p> <p>H Pの充実を図り、積極的な情報発信を行うことができた。</p> <p>次年度の教育コース開設に向けた準備を進めることができた。また関係機関との連携を築くとともに各中学校へ学びの内容を広く周知することができた。</p> <p>高校生としての身だしなみは良くなっているが、スマートフォン利用等の情報リテラシーについては、家庭との連携を強化し、あらゆる場面での指導が不可欠である。</p> <p>新学習指導要領に基づき、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善に努める必要がある。</p> <p>教育相談については、スクールカウンセラー等との連携により早期の対応ができた。次年度は、多様化する事例に迅速に対応するために、組織の強化を図りたい。</p> <p>コンピューターの活用方法の改善とともに、部活動時間の厳守等により仕事の効率化や部活動時間の短縮化を図り、職員の健康管理に努めた。</p>
------	--

(2) 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目 (生徒・保護者へのアンケートの主な項目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力充実のために、分かりやすい授業を心がけたり、定期的に課題を出したりして、学力を伸ばす工夫をしているか。 ・朝の読書の時間を設け、1日の学校生活を落ち着いて始めるのに役に立つようにしているか。 ・身だしなみ指導を計画的に実施し、高校生らしい制服着用ができているか。 ・欠席・遅刻の防止、登下校時の交通安全の推進等、基本的な生活習慣を身に付けることをしているか。 ・いじめのアンケートを定期的実施し、いじめの早期発見・早期対応を心がけたか。 ・進路実現のために補講、模試等を計画的に実施しているか。 ・全校美化を計画的に実施し、日常環境美化に努力しているか。 ・生徒の健康状態を把握することに努め、適切な保健指導を行っているか。 ・学校祭・クラスマッチ等の学校行事を活性化し、生徒が積極的に取り組む工夫をしているか。 ・部活動に積極的に取り組めるよう工夫しているか。 ・ホームページの更新や各種案内を通して、教育活動の情報を適切に行っているか。 ・海外の高校との生徒相互派遣・研修の支援など、国際交流に努めているか。 ・読書に親しみ、図書室を計画的に利用できるように努力しているか。 ・防災への対応が工夫され、生徒・保護者に知らせているか。 ・教育活動全般が生徒・保護者の期待に応える内容・レベルであるよう努力しているか。 ・検定試験合格、資格取得に向けた指導を適切に行っているか。(生活デザイン科対象)
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に積極的に参加し、貢献している生徒が多い。 ・スマートフォン等の利用は、学校での情報リテラシー教育だけでなく、自宅での利用時間増加にともない家庭を交えての情報モラル教育に力を注ぐ必要がある。 ・発達障害に対する職員の研修会等を行い、生徒の特性を理解していくことが大切である。また、個別の支援計画等を利用し、中学校と高校との連携を強化する必要がある。 ・読書は人格形成の上で重要であるため、読書指導の充実を図って欲しい。 ・職員の在校時間が減少しており、職員の健康管理体制が進んでいる。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルにおいて、保護者対象の研修会、情報提供等を機会ある毎に行い、学校と家庭との連携を図りながら生徒の意識を高めていく。 ・研修会等を行い、職員の発達障害への理解を深め、生徒への対応や指導の改善に努める。 ・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業研究を進める。 ・職員の健康管理のため、在校時間減少への更なる取組と仕事の効率化と均等化に考慮する。
学校関係者評価委員から出された主な意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・生活デザイン科の卒業制作発表会を見学し際、作品のレベルや生徒のプレゼンテーション能力の高さに感心した。 ・募金活動等、外部団体と連携した活動が行われている。そのような取組を報道機関を利用して発信すると良い。 ・平成30年度開設の教育コースを楽しみにしている。教育コースで行われる体験学習等魅力的な学びが多く、次世代の教員の育成に寄与することを期待している。 ・交通安全教育、災害教育や自殺防止教育など、命を守る教育をより進めて欲しい。 ・食育の推進や規則正しいリズムで生活する指導の充実を図って欲しい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員4名、学校評議委員5名 ・評価時期3月上旬